

指導資料



鹿児島県総合教育センター

生活 第7号

- 幼稚園，小学校，盲・聾・養護学校対象 -

平成17年5月発行

就学前教育と小学校教育の連携の進め方

- 生活科の学習活動を通して -

中央教育審議会「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」の答申（平成11年12月）では，学校教育において，各学校段階の特質を踏まえつつ，幼児教育から高等教育までの全体を通じた連携・接続が重要であると提言している。

幼児教育から小学校教育への円滑な移行や接続ができるようにするため，幼稚園や保育所と小学校の交流の機会を充実し，両者の教職員が共通理解を図って，就学前教育と小学校教育の連携を推進する必要がある。

平成16年度実施状況調査(県教委)によると，本県の幼稚園等と小学校の連携は，幼(保)・小連絡会が約7割，幼児と児童の交流活動が約半数の小学校で実施されている。また，交流活動を実施している小学校のうち約9割は，生活科の学習活動を通して行っている。

そこで，本稿では就学前教育と小学校教育の連携のねらいや進め方の視点，連携を推進する交流活動について述べ，その交流活動を組み入れた生活科の学習活動例を示す。

1 就学前教育と小学校教育の連携のねらい

子どもの発達や学びは連続性をもっており，就学前教育は，小学校以降の生活や学

習の基盤の育成につながっている。このことから，就学前教育と小学校教育の一貫性に配慮した教育が求められている。

そのねらいは，幼稚園や保育所等の生活の中で育てられた心情，意欲，生活行動などが十分発揮され，楽しく充実した小学校生活を送れるようにすることである。

そのために，幼稚園の教員，保育所の保育士，小学校の教員が互いの教育について相互に理解し合う交流を進め，それぞれの教員が子どもの発達や課題について共通の認識をもつことが大切である。

2 連携の進め方の視点

- (1) 入学した子どもの実態に即した学級づくり
入学当初，子どもは時間や空間の区切りのある小学校生活に戸惑いを覚える。そこで，教員同士は，就学前の連絡会等だけでなく，日常的に情報交換を行い，必要な情報を共有し合うことが大事である。そして，子どものよさ，発達の様子や課題などの実態を把握し，きめ細かな指導に生かすことが大切である。
- (2) 互いに価値ある交流の機会の充実
合同の研究会や研修会，相互参観，合

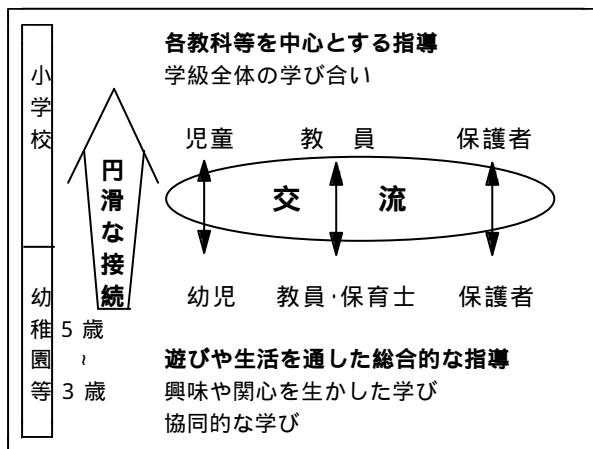
同行事等を実施し，教員間，幼児児童間，保護者間の交流ができるようにする。このような交流によって，就学前教育と小学校教育の違いやつながりを相互に理解できるようになり，幼児や児童の発達特性に配慮した教育が展開されることが期待される。そのことにより，幼児と児童も互いに学び合い，学びの質を高めることができる。

(3) 遊びから学びへの連続性のある教育

幼児期の遊びを通しての学びの過程は，小学校の生活科の学習過程に通じるものがある。具体的な活動や体験を通して，異年齢交流を進めると円滑な接続が可能となる。

(4) 家庭・地域社会の理解・協力

遊びや学びの出会いにおいて，身近な地域社会の自然・もの・人との出会いが重要である。その出会いを生かした交流活動は，子どもたちの学習や生活を豊かにする。そのためには，交流活動を実施する上で，保護者や地域の人々の積極的な参加や理解と協力は不可欠である。



就学前教育から小学校教育への円滑な接続を図る交流

3 連携を推進する交流活動

(1) 交流と方法の内容

連携を推進するための交流活動は，幼稚園等，小学校の実態に応じて実施されることになるが，以下に示すような交流の方法と内容を組み合わせて活動を実施することが望まれる。

方 法	幼稚園の教員や保育士，小学校の教員間の交流 幼児児童の異年齢交流 幼稚園や保育所，小学校の保護者間の交流
内 容	合同行事を通しての交流 生活科や総合的な学習の時間等の授業参加に関連しての交流 就学に関する交流 施設の共有や開放による交流 日常的な交流 合同研修会等を通しての交流

(2) 交流活動を推進する上での配慮事項

ア 活動のねらいの明確化

幼稚園等と小学校のそれぞれのねらいを達成できるように，それぞれに付けたい力を明確にした交流活動を考える。その際に，交流活動で，幼児と児童と一緒に活動をする際は，内容や方法が子どもの実態に応じているか検討する。

イ 指導観・子ども観等の共通理解

遊びに取り組む子どもの姿のとらえ方や受け止め方，援助の仕方の違いを知り，教育内容や教育方法について，教員同士が語り合う場を設定する。教員同士の相互の理解を図ることで，子どもの成長をより深く見ることができ，子どもへのきめ細かな対応が一層可能となる。

ウ 教育課程の見直し・改善

交流活動の実施後は、情報交換等をして活動を振り返り的確に評価をする。教育内容面でつながりのある活動はないか、合同の行事や研修会として組み入れられないかなど、近くの幼稚園等と協議して自校の教育課程を見直し、次年度の教育課程の改善を図る。

4 生活科における交流活動の取組

生活科では、子どもが身近な人や社会、自然と直接かかわる具体的な活動や体験を重視している。幼児と児童の学びのつながりのある活動と内容を組み入れた交流活動を行う。

(1) 交流活動の実施における手順

ア それぞれの教員同士が交流活動の計画・実施について協議できる場を設定する。

イ 子どもにとって価値ある活動となるように、次の共通理解項目等について実施前に綿密な打合せをしてから、学習指導（保育）案を作成していく。

・ねらい	・日程	・活動時間
・場所	・対象児	・活動内容
・準備する物	・持ち物	・往復の安全
・安全確認	・教師の位置と役割分担	
・子ども同士のかかわり		
・配慮を要する子どもへの理解とかかわり方		
・保護者への理解 など		

ウ 交流活動において、幼児と児童が一緒に活動できる場を設定する。

エ 実施後は、教員同士で互いの子どもの見方や指導の仕方などを検討し、活動の反省や評価を行う。

(2) 交流活動の実施における留意点

ア 交流活動では、保護者や地域の方の参加の機会も設ける。

イ 1回だけの活動に終わらせないように、

段階的、継続的な交流を進める。

ウ 参加者や協力者へのお礼や報告をして、継続的な理解や協力を得る。

(3) 幼児との交流活動を組み入れた生活科の学習活動案

次の活動案は、幼稚園と小学校の教員が冬に実施できる交流活動を取り入れた単元について話し合い、作成したものである。

単元名 冬がやってきた(12月～1月)
 <小学校：2年生> <幼稚園：5歳児>

ねらい	冬を見付けたり冬の遊びをしたりして、季節の変化を感じ、冬を楽しむことができる。	身近な人とかかわりながら、冬の自然や遊びを楽しむことができる。
-----	---	---------------------------------

活動1：年賀状を書こう
 自分の好きな方法で年賀状を書く。地域の遊び名人に交流活動への招待状も書く。

活動1：自分の好きな方法で年賀状を作る。

交流活動1：発見！冬あそび
 自分のやりたい遊びを見付けよう。
 ・あやとり ・カルタ ・お手玉
 ・こま回し ・たこあげ ・はねつき
 自分の活動に必要な物を集める。

交流活動2：みんなであそぼう！
 グループごとに地域の遊び名人と遊ぶ。
 (小学校の校庭・体育館)

活動2：お礼の手紙を出そう
 楽しかったことを絵や文にかいて名人に届ける。(郵便で)

楽しかったことを絵や文にかいて名人に渡す。(園外散歩で)

5 幼稚園児と交流する生活科の実践例

A小学校と隣接するB幼稚園の交流活動の実践を述べる。実施に当たっては、互いに授業や保育の参観をしたり、交流活動の事前・事後に教員同士で話し合ったりして、教員間の共通理解を深めた。

6月	生活科の授業提案(幼稚園の教員が参観) 合同研修会(連携の趣旨、課題の確認)
7月	保育参観(小学校教員が参観) 授業参観(幼稚園の教員参観)
9月	授業研究(意見交換)
10月	生活科の授業提案(幼稚園の教員参観) 交流活動の事前打ち合わせ 生活科での交流活動(あきをみつけよう) 合同研修会(活動反省、今後の計画)

ここでは、小単元「あきをみつけよう」（第1学年）における幼稚園児との交流活動の実践例を示す。

小単元「あきをみつけよう」（第1学年 10月～11月）【10～12/24】
（A小学校の実践を基に作成）

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点（下線部は連携の支援）
意欲をもつ	1 幼稚園児と顔合わせをする。 ・ 代表児童のあいさつ	(分)	音楽に合わせて入場する幼稚園児を、拍手で温かく迎える（名札の用意）。 1年生が幼稚園児の招待をするということを代表児童のあいさつの中でも知らせる。
	2 学習のめあてをつかむ。 ようちえんせいといっしょに「あき」をつかってあそびものをつくろう。	15	1年生はグループごとに事前に決めた内容で製作活動に取り組み、幼稚園児は1年生の様子を見ながら一緒に作る物を決めるので、お互い誘い合ったり、場所を譲り合ったりできるように援助する。
見通す	3 作る見通しをもつとともに道具や安全面についての確認をする。 ・ 互いに作りたいものを決める。 ・ 材料・用具の確認をする。 ・ はさみや接着剤の使い方を復習する。 ・ 作る場所や手順の確認をする。	10	幼稚園児・1年生ともに、自然物と身の回りの素材を組み合わせる楽しさと技能の高まりを味わわせることができるよう、いろいろな材料を準備しておくようにするとともに、安全な道具の使い方については、全体的に指導しておく。
作る・遊ぶ	4 集めた素材や身近な材料を使って、自分で工夫して作る。 どんぐりごま やじろべえ お部屋かざり 首かざり、服、おめん、指輪、 ブレスレット 動物、工作 葉っぱの絵、しおり、葉脈写し ツリー、リース	75	形のおもしろさや色の美しさなどの素材の特徴を生かした作品や遊びをしている子どもたちを賞賛し、1年生と幼稚園児の互いのよさが認められるような声掛けをする。 1年生には自分の製作に没頭するだけでなく、幼稚園児との交わりも図られるよう、互いの作品のよい点に着目させながら教師の方からも積極的に声掛けをする。 出来上がった作品は台の上に飾り、別のコーナーで製作をしてもよいことを知らせる。その際、1年生が幼稚園児の名前を書いてあげるなどの手助けをしながら、触れ合いができるように声掛けをする。
振り返る	5 自分や友達の作品を鑑賞する。 ・ 幼稚園児と一緒に、作った遊び物を友達の作品を見て、工夫してあるところを探す。	20	1年生には、自分や友達の作品を見ながら、作り方の工夫にも気付かせる。
	6 活動の感想を発表する。 7 材料や道具の後片付けをする。	15	交流活動で楽しかったことやよかったことを幼稚園児と1年生にそれぞれ発表させる。 幼稚園児と一緒に用具・材料の後始末をきちんとさせる。

このように幼児と児童の異年齢の交流活動を実践することによって、就学前の子どもは小学校に入学後も、安心して学校生活を送ることができるようになる。また、教員の子どもの発達をみる力を育てることにもつながる。

就学前教育と小学校教育との連携を推進する交流活動は、低学年では取り組みやすい生活科から始め、国語、音楽、図画工作などの

教科へと広げたり、第3学年以上では総合的な学習の時間を通して進めたりすることが望まれる。子どもにとってはもちろん、保護者や教員にも意義ある積極的な交流活動が推進されることを期待したい。

【参考文献】

文部科学省『初等教育資料 No791』平成17年2月号

（教職研修課）